

令和6年度 小谷村立小谷中学校 グランドデザイン

新たな社会
"Society 5.0"

5.0

① 人口減少

2050年には日本の総人口は1億人を下回ると予測。

② Diversity & Inclusion

性別、年齢、国籍や障がいの有無に関わらず、多様な人材の能力を発揮させる時代。

③ ESD

持続開発可能な社会の創り手が期待される時代。

④ Society5.0

知識や情報が共有され、連携が不十分な問題をインターネットの力で解決できる時代。



「日本の若者は、社会規範が強い一方、自己肯定感が低い」 (内閣府「子ども・若者白書」)
「日本は、若者が自分で国や社会を変えられないと思っている国」 (日本財団「18歳意識調査」)

生涯を通して変化のめまぐるしい社会にも柔軟に適応し、

個人と社会の **Wellbeing** を目指す社会を **たくましく生きぬく小谷の子**

※ ウェルビーイングとは、幸福で肉体的、精神的、社会的全てにおいて満たされた状態のことを言う。VUCA (先行きが不透明で、将来の予測が困難な社会) にあっては、人々の価値観が多様化し、一元的な価値観に沿って生き抜くことだけが、必ずしもその人に幸せにつながらないと言われている。

【めざす生徒像】ともに学び、夢を拓くひと

非認知能力の向上 (見えない学力)

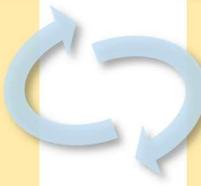
- (1) 自分と向き合う力
⇒ 自制心、忍耐力、回復力
- (2) 自分を高める力
⇒ 意欲・向上心、自尊感情、楽観性
- (3) 他者とつながる力
⇒ 共感性、協調性、コミュニケーション能力

自分や他者が尊いと感じられる生徒

認知能力の向上 (見える学力)

- (1) 学んだことを人生や社会に生かそうとする
⇒ 学びに向かう力、人間性など
- (2) 実際の社会や生活で生きて働く
⇒ 知識及び技能
- (3) 未知の状況にも対応できる
⇒ 思考力、判断力、表現力など

自ら問いを立てワクワク探究する生徒



【学校教育目標 (建学の精神)】 日々新たなるべし 志を立てよ 美しくあれ
～ 草創期の精神に立ち返り「内なる充実」を図る～

【めざす学校像】授業を軸に、共に高め合う関係性を創り出す学校

- 自分らしさを発揮して、自信をもって行動できる生徒を育成する学校
- 筋道を立てて考え、気づいたことを自分の言葉で伝えられる生徒を育成する学校
- 小谷を愛し、小谷に貢献しようとする生徒を育成する学校



【教育理念】 Challenge する学校

- 前例踏襲ではなく、自分の頭で考える。
- 「まずは、自分でやってみる」が認められ、仲間も精一杯応援する。
- トライ&エラーを繰り返して、自己成長へとつなげる。

【重点1 探究的な学びづくり】

個別最適な学び×協働の学びの実現

- (1) 対話を軸とした協働の学びの推進
- (2) ICTの積極的活用と授業のUD化
- (3) 教科コンパスの更新と活用
- (4) 一人一公開の継続
- (5) 家庭学習の改善

「仲間と協働しながら、授業に意欲的に取り組み、課題の解決を図ろうとしている」
(肯定的回答 85%以上)

【重点2 自分づくり】

開発的・予防的生徒指導の推進

- (1) デジタル・ソフツォップ教育の推進
- (2) 道徳教育・人権教育の充実
- (3) 包括的性教育と生命の安全教育
- (4) 職員会議内におけるケース会議
- (5) スクールカウンセラーによる全校生徒面談

「自分や自分以外の人の人権を尊重し、いじめのない学校生活を送っている」
(肯定的回答 85%以上)

【重点3 地域との協働づくり】

未来への投資

- (1) 小谷学の充実 (本物体験、ESD)
- (2) 保小中一貫型教育の充実
- (3) おたり学校園運営委員会の活性化
- (4) 異文化多様体験 (台湾、白子町)
- (5) 生徒会活動の充実 (公約 100%)

「地域の交流を通して、地域の一人の自覚が芽生えてきている」
(肯定的回答 85%以上)

【めざす教師像】生徒の声に耳を傾け、共に学び続ける教師

- 「協働の学び」を手がかりに生徒の探究心に火を灯します。
- 教師自身が「共同探究者」として授業改善に Challenge します。

ワーク・イグ イノベティブな高い職場づくりとワークライフバランスの実現

令和6年度 OTARI 中スローガン
Open (地域に開かれた学校へ)
Try (日々の授業改善に)
Act (生徒と共に)
Respect (生徒・地域の方・同僚に)
I imagine (幸せな未来を願って)